



清風

南砺市立上平小学校
学校だより
令和4年12月
上平小学校ホームページ
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

子供が自分で決められる

校長 中町 寿子

「子供が自分で決められる」を大切にしたい教育活動を進めていきたいと、4月の学校だよりでお伝えしました。このような自己選択や自己決定の場面は、学校生活の中にはいくつもあります。

例えば、現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、給食は、低・中・高学年ごとに配膳し、各教室で食べています。これまで中学年では、教職員が給食当番の子供に細かい指示を出しながら、短時間に配膳を終えることができるように準備を進めていました。しかし、もう年度の後半です。指示がなくても考えて行動できる子供でなければならないと中学年の担任は考え、子供たちに給食の準備等を全て任せてみることにしました。教職員は、周りで見守るだけで口出しはしません。元々自分の仕事内容は理解している子供たちですが、いざとなると盛付けの量が難しい。量の加減はこれまで指示された通りにやっていたからです。また、休んでいる当番の仕事は、誰がすればよいのでしょうか。この日は二人休んでいました。さて困った。でも、教職員は、黙って見守っています。まず、3年生のAさんは、担当の牛乳やストローの準備を終えると、おかずの盛付けに入りました。2種類のおかずを友達と相談しながら皿に盛り付けていきます。量を増やしたり減らしたりしながら、一生懸命やっています。そこへ、ご飯の盛付けを終えた4年生のBさんが、Aさんに声を掛け、交代してくれました。するとAさんは、ちょっと考えていましたが、教職員の給食を作って運び始めました。そして、また次の仕事を見つけて進んでやっていました。この日は、準備の時間がかかりかかってしまいました。でも、せかす子供もいなければ、文句を言う子供もいません。私は子供たちの姿に感心するばかりでした。

実際に大人は、どこまで子供に任せているのでしょうか。子供が助けてほしいと言わないうちについて助け舟を出してしまいたくなることがあります。上智大学教授の奈須正裕先生は、「子供は有能な学び手である」と言っておられます。子供を信じ任せることの大切さを給食準備の一場面ではありますが、改めて実感しました。

《ほのぼの上平っ子5》

雑巾が真っ黒

清掃の時間に、熱心に床を雑巾の端を使って拭いていたのは、1年生のCさんでした。ぬらして硬く絞った雑巾で、教室の床の汚れを見つけてはきれいにしていました。今の掃除場所に替わってから半月余り経ちました。雑巾はところどころ墨で黒くなっていますし、全体もかなり使い込まれた色になっていました。こうやって一つ一つ丁寧に汚れを落としてきれいにしてくれている1年生に感心しつつ、1年教室の雑巾掛けを見たら、同じような雑巾が、何枚もかかっていた。黙々と雑巾がけをする1年生の子供たち。きれいな校舎は、1年生から守られているのだと思いました。



学校保健委員会より

保健主事 中井 正子

先日、本年度の学校保健委員会が行われ、児童の現状をもとに意見交換をしました。会では、児童の視力や歯の健康、感染症対策等が話題になりました。

まず視力ですが、本校でも学年が上がるにつれて低視力者が増える傾向にあります。近年、タブレットやスマートフォンが児童の身近なものになり、近くに焦点を合わせることが多くなっています。また、画面に向かって集中していると時間を忘れてしまったり、まばたきの回数が少なくなったりします。大人でも、「眼を休める時間をとる」ことを意識できていないのが現状だろうと思います。食後の歯磨きのように、眼を休める習慣付けができるような方法について、生活の中で考えてはどうかという結論になりました。今後、学校ではどんな方法があるかを考えていきます。

歯の健康については、磨き方が大切で、小学生のうちではできれば家の方が仕上げ磨きをしてあげることや小児用フロスの利用も効果的であることを学校医の先生から伺いました。

感染症対策については、手洗いとうがい、コロナ以外にも効果的であること。また、児童の家庭内感染は防ぎにくいこと、罹った場合に外へ持ち出さないことが大切だと伺いました。

児童の健康を守るために、これからも、家庭と学校で協力していきたいと思えます。